

「性同一性」と私らしさ

—セクシュアリティへのこだわりを問い直す—

『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』
(ジョン・キヤメロン・ミッチェル監督作品)

を観る

私たちの多くは、自分自身が「女であること」や「男であること」になんらの疑問も違和感も覚えることなく日々暮らしているかもしれない。だが、そうした「性の同一性」は、果たして本当に自明なものなのだろうか。どちらかの性に同一化することだけが、幸せな「性のあり方」と言い切れるのだろうか。各人各様の「私らしさ」を実現するための多様な性—生の可能性について、自由に語り合う場を持ちたい。

2008年度
「マイノリティー」としての
「人権」を考えるフィルムセッション
第7回(2008年度第1回)

■日時：2008年11月10日(月) 15:15～18:30

■場所：関西学院大学 上ヶ原キャンパス 図書館ホール

■トーカー：尾崎 日菜子 (パフォーマンスユニット「ひし形」主宰)
藤田 博美 (プラウド in 香川代表 /
香川レインボー映画祭実行委員長)

■ナビゲータ：阿部 潔 (関西学院大学 社会学部)

一般公開・参加無料

お問い合わせ

関西学院大学 人権教育研究室
Tel. 0798-54-6720
E-mail. masahi@kwansei.ac.jp

参加ご希望の方は「なりたい自分」で是非ともお越し下さい。